

過酷な条件を想定した原子力防災訓練を実施し、事故への総合的な対応能力を検証・確認しています。

休日に過酷な重大事故が発生したという厳しい想定のもと 高浜発電所原子力防災訓練を実施しました

当社は、平成27年10月23日、休日の事故を想定し、限られた要員での初動体制において、発電所の複数のプラントで過酷な事故が発生したという厳しい状況想定のもと、また、シナリオを参加者に明かさぬ形で原子力防災訓練を実施しました。

発電所においては、大容量ポンプの接続やがれきの撤去など、重大事故に対処するため、新たに整備した設備や資機材を活用した訓練等を行いました。また、原子力事業本部では事故対策の重要な事項に係る意思決定や、発電所の支援のため、「原子力施設事態即応センター」を立ち上げ、八木社長が大阪からヘリコプターで駆けつけ指揮を執りました。

センターでは、原子力規制庁対策監と連携し、テレビ会議システムを使って現地対策所からの情報収集や共有を図る等、事故対応を行いました。

本訓練では、整備した体制や仕組みの有効性や、発電所での確実な事故制圧と、原子力事業本部による迅速的確な発電所支援が行えるかを検証しており、当社は今後、今回の訓練に関する詳細な評価、確認を行い、改善につなげ、引き続き実効性のある原子力防災体制構築に向け、一層の充実を図っていきます。



大阪市内から福井県(嶺南のヘリポート)へヘリコプター移動(八木社長)

高浜発電所



大容量ポンプ接続訓練の様子



取水用水中ポンプ設置の様子



がれき撤去訓練の様子

原子力事業本部



指揮を執る八木社長(右)



原子力規制庁対策監との連携の様子



大型スクリーンで発電所の各種データを共有

当社地域交流紙
「若狭のふれあい」
(H27年11月)
掲載記事抜粋

福島第一原子力発電所事故を踏まえ、高放射線量下など多様かつ高度な災害対応が可能な世界最高水準の災害対応組織を整備するため、電気事業連合会で、原子力発電所での緊急事態対応を支援するための組織を設立しています。

原子力緊急事態支援センター 福井県に設置(2013年1月)



- 延べ床面積 約500㎡
- 9人体制
- 365日・24時間オンコール待機
- 要員の訓練、育成
- ホット等資機材の維持管理、保守・改良

ロボット操作訓練

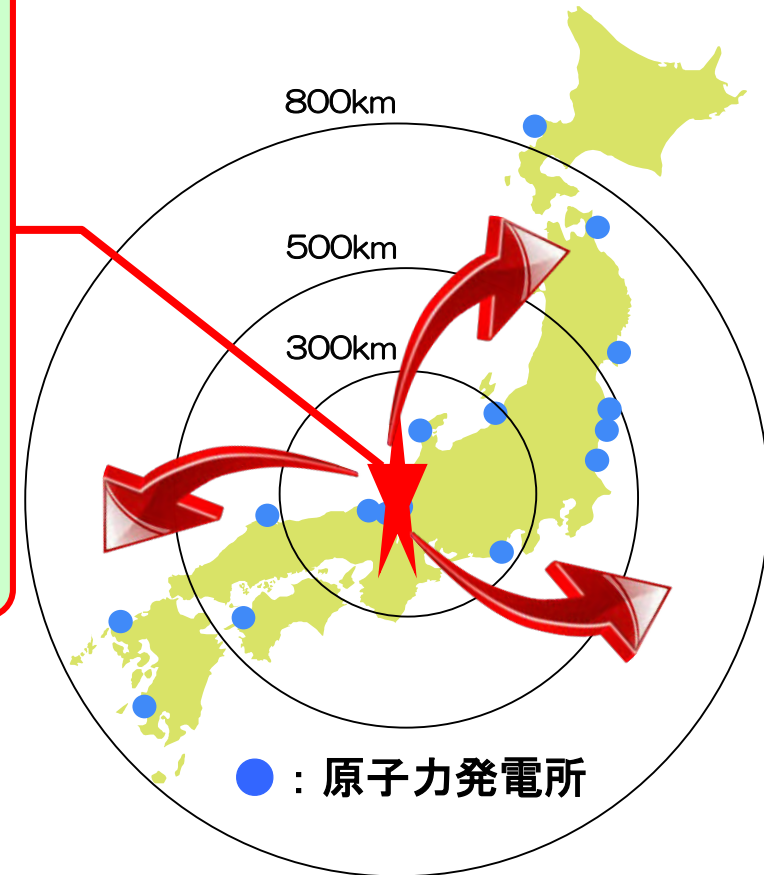
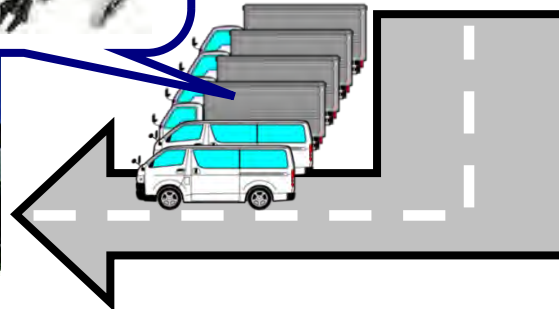


SOS!

要請に応じて出動

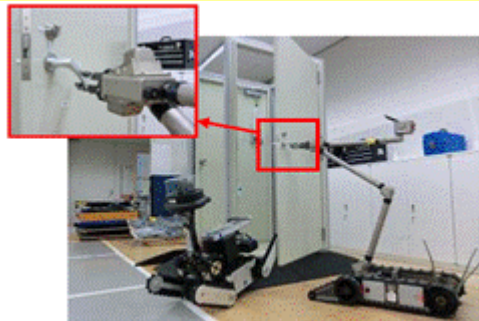


発災発電所

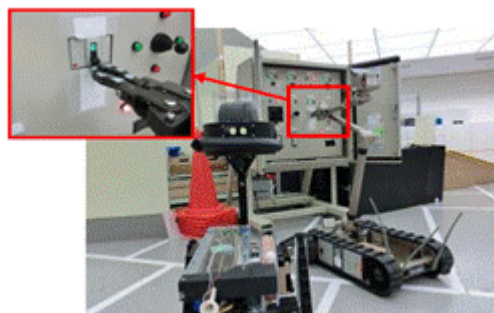


支援センターには事故収束に必要なロボットや除染設備を配備し、各事業者の要員の訓練を実施してきました。また、当社の防災訓練に参加し、連携を確認してきました。緊急時には、これらの資機材を発電所に輸送し、事故収束対応の支援を行います。

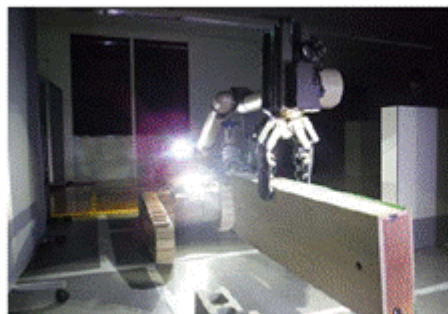
ロボット基本操作の訓練



開錠レドアノブを掴んで開放し通過



制御盤を開放しスイッチ操作



暗闇での障害物撤去



バルブの開閉操作

これまでの訓練実績：延べ 58名

防災訓練



発電所内での訓練



資機材搬送訓練

防災訓練参加実績：3回
至近ではH27.10の高浜発電所
訓練で資機材を発電所に搬送